



タムス浦安病院の新たな視点

- 大学病院、行政、民間病院の連携による運営
- リハビリ、緩和ケアなど地域ニーズに応える
- 急性期と回復期の地域連携を展開

1 医師、看護師、リハビリスタッフ、相談員など多職種が集まって毎朝開催する判定会議。入院受け入れの可否だけでなく組織の一体感を育む情報交換の場でもある 2 リハビリスタッフ専用のステーション。電子カルテの入力スペースや個人の勉強スペースを設けるなど充実させた 3 総務課、医事課、連携室、医局は間仕切りなしのオープンフロアで円滑なコミュニケーションを実現 4 柔らかなライティングや木の自然な風合いを生かした温かみのある受付エントランス 5 リハビリテーション室は広い空間を確保、ドライビングシミュレーターなど最新機器を導入 6 1階にある院内研修や地域のイベントなどに使えるラウンジスペース 7 河野陽一院長、森芳久副院長、竹内正人特任教授（左から）



医療法人社団城東桐和会
タムス浦安病院
住所：〒279-0023
千葉県浦安市高洲7-2-32
病床数：199床（回復期リハビリ病棟134床、
地域包括ケア病棟44床、緩和ケア病棟21床）
URL: <https://tums-urayasu.jp/>

「浦安急性期・回復期連携の会」を立ち上げて展開。急性期と回復期の病院が現場のデータを共有し、地域の声をもとに課題解決を行っていくことで、質の高い医療・福祉の提供をめざす。同じく特任教授でリハビリテーション部の竹内正人部長は「急性期と回復期の強いパイプづくりは非常に重要。患者さん、地域住民、そして病院スタッフのよりよい生活、豊かな人生を支える『浦安モデル』となるような新たな地域医療を展開していきたい」と意気込む。

同院との連携だけでなく、「浦安急性期・回復期連携の会」を立ち上げて展開。急性期と回復期の病院が現場のデータを共有し、地域の声をもとに課題解決を行っていくことで、質の高い医療・福祉の提供をめざす。同じく特任教授でリハビリテーション部の竹内正人部長は「急性期と回復期の強いパイプづくりは非常に重要。患者さん、地域住民、そして病院スタッフのよりよい生活、豊かな人生を支える『浦安モデル』となるような新たな地域医療を展開していきたい」と意気込む。

市内初の回復期リハ病棟を中心に 新たな連携により地域医療を担う

2019年4月に開院したタムス浦安病院。
千葉大学医学部附属病院、浦安市との強固な連携により
回復期機能を充実させ、地域医療を支える。

vol.23

病院新時代



回復期リハビリ病棟のスタッフステーション前にはリハビリができるスペースを設ける

機能としては、脳血管や運動器疾患、廃用症候群など急性期後のリハビリが中心だ。同センターの特任教授を兼務する森芳久副院長は「先進的なリハビリ機器を導入できたので、実際に患者さんの治療に使うことでエビデンスを出せれば大学の研究にも還元できます」と指摘する。

また、市内初の緩和ケア病棟を開設し、高次脳機能障害の治療を行うなど市のニーズに応えるかた

撮影＝下山展弘